

井伊直虎

戦乱の世に生きた軌跡

お家断絶の危機に立ち上がった、

希代の“女城主”。

井伊家歴代当主の中にこの名はないが、

戦国時代を語る上で

欠かすことのできない注目的人物だ。



エピソード I EPISODE 別れと出家

直虎（幼名 生年月日不明）は、
井伊家当主 井伊直盛と新野
左馬助親矩の妹との間に誕生
した一人娘とされている。

直盛には嫡男がなく、従弟の
亀之丞（後の井伊直親）を一人
娘の許婚とし、井伊家の跡継
ぎにする予定だった。ところ

が、天文13年（1544）、亀之
丞の父・直満が今川義元に謀
反の嫌疑をかけられ殺された
上に、当時9歳だった亀之丞

までも命を狙われ、信濃（長野
県）の松源寺に身を隠すこと
になる。

が、天文13年（1544）、亀之
丞の父・直満が今川義元に謀
反の嫌疑をかけられ殺された
上に、当時9歳だった亀之丞

までも命を狙われ、信濃（長野
県）の松源寺に身を隠すこと
になる。

直虎から引き離され悲しみに
くれる直虎は、菩提寺である
龍潭寺で出家を決意。第二世
住職 南渕和尚は井伊家跡継
ぎの証である「次郎」を冠した
「次郎法師」の名を与えた。



井伊直虎・直政歴史年表

井伊家の歴史

許婚が急にいなくなつて
しまつたのじゃ。
かわいそうじやの。

略系図	
直義	直平
直満	直親
南渕和尚	直宗
直盛	直虎
直義の妻 後がない のじゃな い	直親
虎松	

II エピソード 逆らえぬ運命と虎松の誕生

かなかつた。

永禄5年（1562）には、今川氏真から、徳川方へ寝返つたと嫌疑をかけられ直親が誅殺され、さらに次郎法師の曾祖父にあたる井伊直平も戦中に死去。井伊谷城代を務めた中野氏と新野氏まで戦死してしまい、井伊家は一族の主立った男性をすべて失い、男子はわずか4才の虎松のみとなつた。

11年後の弘治元年（1555）、無事井伊谷に戻つた亀之丞は、直盛の養子となり「直親」と名を改めた。許婚の帰還を喜ぶも、すでに出来ていた次郎法師は直親と結ばれることはなく、直親は古くから井伊氏の家臣であった奥山氏の娘と結婚することになる。

直親の帰還から5年後、井伊家にとつて受難の時代が始まることになる。永禄3年（1560）、桶狭間の戦いで直盛が戦死。翌年、政（まさ）が誕生し、喜びに沸いた井伊家だったが、安泰は長く続

Check 井伊家伝記 いいけでんき

享保15年（1730）、龍潭寺9代目の住職である祖山（そさん）和尚が記した井伊家の歴史書。「次郎法師は女ではあるが、井伊家を継ぐ家に生まれたので、跡継ぎの名と僧侶の名をかねて、次郎法師」というといった意味の記述がある。

（龍潭寺所蔵）

牛伊家傳記



井伊谷城跡

標高約115m、丘陵に築かれた井伊氏の城館。井伊氏の本拠地は井伊谷城とその山麓にあった居館に加え、最終的な詰め城である三岳城で構成されていた。現在は城山公園として整備されており、土塁などの遺構が見学できる。

浜松市北区引佐町井伊谷字城山（城山公園）交／遠鉄バス「神宮寺」より徒歩約10分

直政の命の恩人 井伊氏最大のピンチを救った武将「新野左馬助親矩」にいのさまのすけちかのり

今川氏の家臣であった新野左馬助親矩は、遠江国新野（現御前崎市）の領主。妹は井伊直盛の妻であり、直虎の母である。左馬助は井伊氏の目付役家老として井伊谷に居住し、今川氏との間をとりまとめ井伊氏を支えた。

永禄7年（1564）、今川氏真により直親が誅殺され、左馬助が助命を嘆願。命をかけて虎松を守り、井伊氏の危機を救ったといわれる。左馬助は永禄7年（1564）、引間城攻めで無念の死を遂げた。

（光山房）

戦国時代	
1560年（永禄12年）	直虎（弘治元年）
1561年（永禄13年）	直虎（弘治元年）
1562年（永禄14年）	直虎（弘治元年）
1563年（永禄15年）	種子島に鉄砲伝来
1564年（永禄16年）	井伊直盛の養子となり井伊直親と名乗る。
1565年（永禄17年）	信州より亀之丞（20歳）帰国。
1566年（永禄18年）	松平竹千代（徳川家康）へ人質として入る。
1567年（永禄19年）	キリスト教伝来
1568年（永禄20年）	井伊直盛の養子となり井伊直親と名乗る。
1569年（永禄21年）	信州より亀之丞（20歳）帰国。
1570年（永禄22年）	桶狭間の戦い。井伊直盛、今川義元に従い出陣。桶狭間にて織田信長と戦い、義元と共に討死。直親（25歳）が井伊家当主を継ぐ。
1571年（永禄23年）	井伊家城代・中野信濃守直由、新野左馬助戦死。
1572年（永禄24年）	直満の子亀之丞（9歳）も命を狙われ信州に身を隠す。
1573年（永禄25年）	松平元康（徳川家康）は今川敗戦の混乱に乗じて岡崎城に入城し、今川氏と決別。
1574年（永禄26年）	岡崎城にて、今川氏と決別。
1575年（永禄27年）	今川氏滅亡。
1576年（永禄28年）	足利幕府崩壊。井伊谷は武田軍により焼き払われる。
1577年（永禄29年）	井伊直親の弟、直義が、家老小野道高のさん言により、駿府で今川義元に誅殺される。
1578年（天正1年）	直義の子亀之丞（7歳）も命を狙われ信州に身を隠す。
1579年（天正2年）	井伊直親（27歳）、家老小野政次（さん言）により今川氏真が井伊領に出した徳政令を実行する。これにより直虎の地頭職は廃止され、家老小野政次が井伊領を支配し、直虎は武田軍により焼き払われる。
1580年（天正3年）	井伊直親の命で、井伊直親の祖父・井伊直平が出陣
1581年（天正4年）	今川氏真の命で、井伊直親の祖父・井伊直平が出陣
1582年（天正5年）	直虎（14歳）、父井伊直親13回忌法要のため鳳来寺（おほり）井伊谷に帰還。
1583年（天正6年）	井伊直親の命で、井伊直親の祖父・井伊直平が出陣
1584年（天正7年）	直虎（15歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1585年（天正8年）	直虎（16歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1586年（天正9年）	直虎（17歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1587年（天正10年）	直虎（18歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1588年（天正11年）	直虎（19歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1589年（天正12年）	直虎（20歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1590年（天正13年）	直虎（21歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1591年（天正14年）	直虎（22歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1592年（天正15年）	直虎（23歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1593年（天正16年）	直虎（24歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1594年（天正17年）	直虎（25歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1595年（天正18年）	直虎（26歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1596年（天正19年）	直虎（27歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1597年（天正20年）	直虎（28歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1598年（天正21年）	直虎（29歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1599年（天正22年）	直虎（30歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1600年（天正23年）	直虎（31歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1601年（天正24年）	直虎（32歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1602年（天正25年）	直虎（33歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1603年（天正26年）	直虎（34歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1604年（天正27年）	直虎（35歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1605年（慶長1年）	直虎（36歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1606年（慶長2年）	直虎（37歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1607年（慶長3年）	直虎（38歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1608年（慶長4年）	直虎（39歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1609年（慶長5年）	直虎（40歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1610年（慶長6年）	直虎（41歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1611年（慶長7年）	直虎（42歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1612年（慶長8年）	直虎（43歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1613年（慶長9年）	直虎（44歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1614年（慶長10年）	直虎（45歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1615年（慶長11年）	直虎（46歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1616年（慶長12年）	直虎（47歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1617年（慶長13年）	直虎（48歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1618年（慶長14年）	直虎（49歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1619年（慶長15年）	直虎（50歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1620年（慶長16年）	直虎（51歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1621年（慶長17年）	直虎（52歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1622年（慶長18年）	直虎（53歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1623年（慶長19年）	直虎（54歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1624年（慶長20年）	直虎（55歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1625年（慶長21年）	直虎（56歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1626年（慶長22年）	直虎（57歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1627年（慶長23年）	直虎（58歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1628年（慶長24年）	直虎（59歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1629年（慶長25年）	直虎（60歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1630年（慶長26年）	直虎（61歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1631年（慶長27年）	直虎（62歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1632年（慶長28年）	直虎（63歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1633年（慶長29年）	直虎（64歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1634年（慶長30年）	直虎（65歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1635年（慶長31年）	直虎（66歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1636年（慶長32年）	直虎（67歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1637年（慶長33年）	直虎（68歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1638年（慶長34年）	直虎（69歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1639年（慶長35年）	直虎（70歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1640年（慶長36年）	直虎（71歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1641年（慶長37年）	直虎（72歳）、徳川家康に仕官を認められ、万千代、戦で手柄をあげ、一万石に加増。
1642年（慶長38年）	直虎（73歳）、徳川家康に仕官を認められ、